

(完2、可2)

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学  
第105回経営協議会議事要録

日 時 令和4年11月25日(金) 13:55～15:15  
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 第1・第2会議室 (JAIST国際セミナーハウス1階)  
出席者 寺野稔(議長)、永井由佳里、飯田弘之、西山和徳、細野昭雄、  
井熊均、岩澤康裕、小俣一夫、金井豊、小原奈津子、仲井培雄及び  
永田晃也の各委員  
欠席者 黒田壽二、中尾正文、馳浩の各委員  
オブザーバー 三宅幹夫監事、水野一義監事、内平直志学系長、鶴木祐史学系長、  
小矢野幹夫学系長、松見紀佳学系長及び吉丸尚宏石川県企画振興部課長

議事に先立ち、議長から、事前に送付した令和4年9月16日開催の第104回経営協議会の議事要録(案)について、資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

## 議 事

### <意見交換>

#### 1 令和5年度の研究科運営について

学長及び神田副学長から、令和5年度の研究科運営について、資料2に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

- ・現在を踏襲するような形でただ組織的に纏め直すもの、というように受け取れたが、その程度の理解でよいか。

⇒一つははっきりしている点として、これまで明確な定義付けが弱かった学系という存在について、廃止による見直しを行った事が挙げられる。学位認定や学生指導に関する部分を担う組織として学位別教員会議を置いたため、形の上では学系に近い構造になっているが、従来の組織が持っていた曖昧さはかなり払拭出来たのではないかと考えている。

- ・学位別教員会議と研究領域とは重複しているのか。また、学位別教員会議の議長又は副議長に選ばれ、かつ研究領域長にも選ばれた先生の場合、研究領域の方は見かけみいたいな形になり、実際に代議員会に出ていくのは、研究科長をトップとする破線囲み部分の方がメインになってしまう可能性の方が高くなるということか。

⇒研究領域が3つ・3つ・4つとこの学位別教員会議にぶら下がっており、教員はその両方に所属している、という形である。また、学位別教員会議と研究領域とで重複した教員が選出された場合、それは研究領域長より上の副研究科長又は評議員を兼務している方となるが、基本的に研究領域長も全員出て来ることになるので、特に問題は無いと考えている。

- ・研究領域長を准教授の方でも選出可能という点は非常に革新的で良いと思う。確認したい点として、学位別教員会議を置いた事により各教員が指導出来る学位が明確化する訳だが、一人の先生が複数の学位別教員会議に所属するという可能性もあるのか。単純にこういった組織を作る際は、なるべく民主的な決定が出来るように、権限の偏重等が起らないような権限配置がされているかどうかポイントだと考える。

⇒例えば、情報科学の学位指導が出来るし、知識科学でも出来るという場合には、両方の学位別教員会議に所属する形になることもあり得る。ただその場合でも、メインの所属はどちらか片方になると認識している。また、副研究科長が評議員を指名する仕組みなので、複数の学位別教員会議で同時に副議長兼任が生じる等の権限偏重は起らないものと考えている。

- ・研究領域について、ボトムアップで出来た組織ということだが、例えば学長裁量でこれまでに無い新しい分野の先生方を採用したという場合、その先生は研究領域には入らなくても良いということになるのか。また、ある研究領域に入りたいと言っても入れないようなケースが生じる可能性はあるのか。その辺りも含め、研究領域の目的、どういった役割を果たしていくのかという部分が分かり辛い。

⇒飛び抜けた分野の研究者であれば研究領域に所属しないということがあり得てもいいと思うが、研究領域は先生方自身に決めて貰うステップを採っているため、基本的には全く外れるという事は考えにくい。また、新しく着任した先生がこういう研究領域に入りたいと希望した時に、それを拒否されるということまでは想定していなかった。おそらく無いとは思いますが、もし拒否されるというケースが生じた場合には、学長裁量で判断させて貰えればと考えている。

- ・研究領域について、学生や企業からの見え方も非常に重要と考えるので、学生や企業にも伝わるような説明を色々な機会を捉えて是非実施いただきたい。

⇒研究の活性化を考える中で当然、学生獲得にも尽力して貰う組織なので、学生募集の中で各研究領域のアピールは先生方に十二分にやって貰いたいと考えているし、場合によっては、必要に応じ研究領域の名称変更があっても然るべきとも考えている。

また、企業への説明については、本学の修了生達が就職している企業に向かって情報を提供する他、企業説明会で集まっていたいただいた企業の方々に研究領域の意味を聞いていただくステップを設ける等の動きを、是非直近の機会から採っていきたいと考えている。それから金井委員が所属されている北陸経済連合会の方でも、機会を頂戴できれば本学の取組みについて是非アピールさせていただきたいと考えている。

- ・資料右側緑色の代議員会は12名と研究領域10名の22名で構成されている一方で、左側に学長が議長となる教育研究評議会があり、そこに12名という赤い矢印があるが、これは代議員会で決めたことを教育研究評議会最終決定するという意味なのか。

⇒この矢印の意味は、単にメンバー間の関係を表しているだけあり、機能的な上下を表し

ている訳ではない点に注意願いたい。代議員会構成員のうち研究領域からの10名を除いた破線部分のメンバーが、教育研究評議会の構成員ともなる、という意味である。

## 2 Matching HUB Nagaoka 2022及びMatching HUB Hokuriku 2022について

学長から、Matching HUB Nagaoka 2022及びMatching HUB Hokuriku 2022について、資料3に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

- ・2日間出席し、とにかく熱気というか活気があるという話を参加者からいただいた他、もしかしたらコロナ前より盛り上がったかもしれない、という印象を受けた。今年は様々な支援機関が出て来ており、官も民もスタートアップという所に対する支援メニューが凄く増えているという印象を受けたので、我々もこういう物との連携をどうするかというのが非常に大事であると考えます。

⇒地方に置かれた国立大学としての使命を考えた上で、その地域の活性化にどれだけ貢献出来るかということも本気になって取り組むべきことであり、プレゼンスを明確にするような動きは是非進めて行くべきと考えるので、Matching HUBの継続的な開催をご了解いただきたい。

- ・北陸の経済規模は日本全体の3%位であるが、ベンチャーで言うとおそらく1%強位と非常に少ない状況である。例えば北陸の会社のニーズがあっても、東京や京都に流れてしまい北陸でのベンチャーが中々育たなかったという事もあり、こういう取り組みによって北陸地域内で大学と企業とが協力し合い新しい物を作っていくことは非常に大切だと思っている。是非今後とも一生懸命取り組んでいただきたい。

⇒今回お越し頂いたMatching HUBのパネリストにも、自身は拠点を決めないで出先の所を動き回っており、しかもその拠点のひとつが北陸の能登にあり、インターネットなり何なりで連携を取りながら非常に先進的な仕事をしている方がいる。こういった方に触発されて、大学の先生方を中心に北陸地域でもっともっと新規ビジネスを起こす動き、あるいは地域の企業と連携して新しい仕事を起こす動きが進んで行けばと考えている。

- ・北陸全体としてスタートアップ企業の数が基本的に少なすぎるというのは如何なものかと思うので、北陸先端大だけでなく、北陸の大学として共通の動きや何らかの取り組みをすると良いのではないかと。

⇒研究振興とその実用化という所で相反する部分もあつたりするので、一概にスタートアップにという事は言いにくい部分があるが、各研究者が自身の研究成果を世の中に還元するために尽力いただくことは大賛成である。また、ベンチャーは大切であり精一杯取り組むことについて論を待たないが、同時に地方国立大学の役目として今現在ある企業、特に地方中小企業をどれだけ元気に出来るかということも、日本全体を活性化していく上で本当に大きなファクターだと思っており、様々な形でこの地域の企業を元気に出来るような事をやっていきたいと考えている。

#### <審議事項>

##### 1 令和4年度補正予算について

会計課長から、令和4年度補正予算について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、追加・修正等の必要が生じた場合の対応については、学長に一任された。

##### 2 学内規則の一部改正

###### ・学則の一部改正について

総務課長から、学則の一部改正について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

#### <報告事項>

##### 1 最近の本学の活動状況について

広報室長から、最近の本学の活動状況について、資料6に基づき報告があった。

#### <その他>

##### 1 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を令和5年3月17日（金）に予定している旨の説明があった。

## 資料

- 1 第104回経営協議会議事要録（案）
- 2 令和5年度の研究科運営について（案）
- 3 Matching HUB Nagaoka 2022及びMatching HUB Hokuriku 2022について
- 4 令和4年度補正予算について
- 5 北陸先端科学技術大学院大学学則の一部改正について（案）
- 6 最近の本学の活動状況について